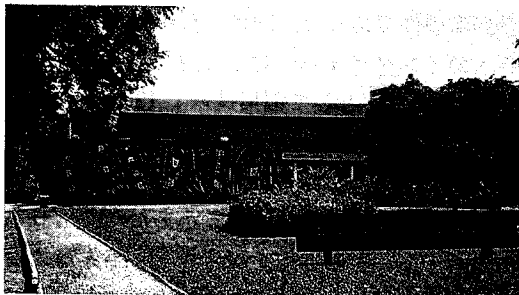


浜口伸明

(中南米総合研究プロジェクト・チーム)



東北ブラジル人類博物館

同財団の前身であるジョアキン=ナブーコ社会問題研究所 (Instituto Joaquim Nabuco de Pesquisas Sociais: IJNPS) は著名な文化人類学者ジルベルト・フレイレ (当時、連邦下院議員) の構想に基づいて、1949年に彼の故郷でもあるブラジル東北地方の中心都市レシーフェ市に創立された。当初は教育文化省の付属機関として発足したが、創立30周年にあたる1979年に新たに教育文化省関連の財団法人・ジョアキン=ナブーコ財団として発展的に再編成されて現在に至っている。

研究活動は、ブラジルの北部・東北部地域を対象にして、歴史学、社会学、心理学、文化人類学、経済学、人文地理学など多彩な学問領域からのアプローチが試みられている。これはIJNPS時代から一貫したものである。北部・東北部といえ、*「東北部さえなければ、ブラジルは先進国になれるのだが」*と南部諸州の人たちが冗談めかして言うように、経済発展が遅れた地域なのだがFUNDAJでは意欲的にこの地域の開発問題、特に農村地域の貧困問題に取り組んでおり、政府やSUDENE (東北部開発庁) などとの共同研究も盛んに行なわれている。またその一方では、東北部農村地方の伝統的な文化や習慣を保存しようとする研究も行なわれているのが、この研究機関の一つの大きな特徴といえよう。

社会科学分野だけで4万3000冊を超える蔵書を有している中央図書館には新聞のマイクロフィルム

やビデオ等近代的設備も整っており、国内や英国の主要図書館とのネットワークを通じて、財団の研究者は各種文献のコピーを入手することも可能である。なお、この図書館は一般にも公開されており、学生や他機関の研究者にも利用されている。

研究成果は、「調査研究シリーズ」「講義・講演シリーズ」「特殊研究シリーズ」「資料シリーズ」などの単行本の他、年2回発行される雑誌 *Ciência & Trópico* のなかで発表されるほか、講演会やシンポジウム、あるいは公開講座も常時開催している。

研究成果普及のもう一つの形として「東北ブラジル人類博物館」(Museu do Homem do Nordeste) がジョアキン=ナブーコ財団によって1979年に設立された。館内は「砂糖展示室」「文化人類学展示室」「民衆芸術展示室」の3部門に分けられていて、合わせて約2万点の展示物が見られる。訪問者にはポルトガル語または英語のガイドがついていていねいに説明してくれる。特に東北部の伝統産業である製糖業の歴史や製造工程を示した「砂糖展示室」は興味深い。

ブラジルでは政治や経済の動きがサンパウロやリオデジャネイロを中心とする南部諸州に集中しがちだが、学術研究の活動に関してもその例外ではない。そのなかで、FUNDAJが東北部のレシーフェ市に存在することは、この地方の学問水準の向上に貢献しているとともに、優秀な人材が他地域に流出することを防ぐという意義もあるといえよう。

連絡先: Fundação Joaquim Nabuco

Av. 17 de Agosto, 2.187,

Casa Forte

50.000, Recife-PE, Brasil

Fone: (081) 268-2000